

# 基数不変量のゲーム理論的バリエーション

後藤 達哉

神戸大学

2023年9月23日

日本数学会秋季総合分科会 2023 @ 東北大学

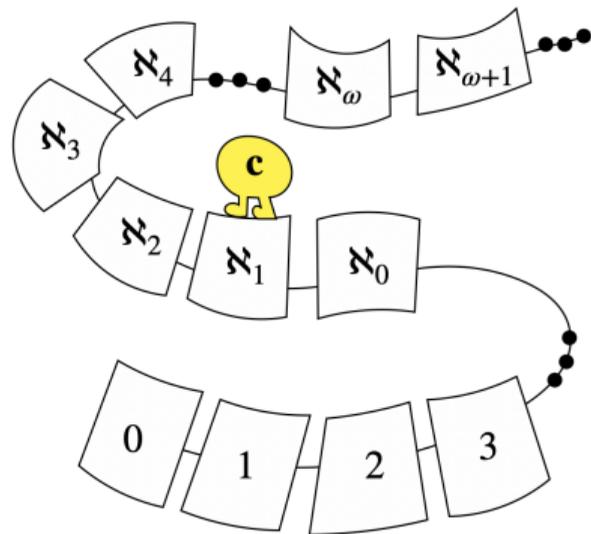
本研究は Jorge Antonio Cruz Chapital および林佑亮との共同研究である  
本研究は JSPS 科研費 JP22J20021 の助成を受けたものである

# 集合論

集合論は無限集合，特にその濃度について様々な考察をする分野である。

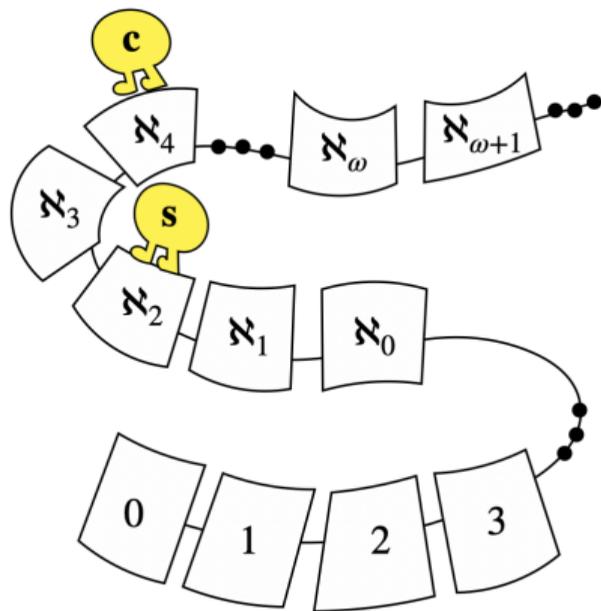
可算濃度を  $\aleph_0$  とし，連続体濃度を  $c$  と書く．可算濃度の一個次の基数を  $\aleph_1$  と書く．

$\aleph_0 < c$  は ZFC の定理 (Cantor) だが， $c$  が  $\aleph_1$  かどうかであるかは ZFC で決定できない (Gödel, Cohen)．



# 基数不変量

連続体の**基数不変量**は実数の構造から定まる基数である．それらは典型的には  $\aleph_1$  以上  $c$  以下の値を取る．それらの多くは  $\aleph_1$  と等しいことも  $c$  と等しいことも ZFC では証明できないものである．



# 無限ゲーム

ターン数が無限 ( $\omega$ ) の2人が対戦するゲーム (無限ゲーム) は、集合論において非常に重要。

特に、決定公理は無限ゲームに関する重要な公理だが、選択公理と互いに排反である。今回は特に決定公理のことは考えず、普段どおり選択公理を仮定する。

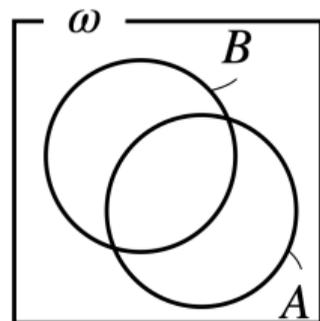
本研究は基数不変量をゲーム理論的に修正して得られるものを調べることにより、基数不変量とゲーム理論の二つの分野を接続する。

# splitting number の定義

自然数の無限集合  $A, B$  について  $A$  が  $B$  を分割するとは,

$$|B \cap A| = |B \setminus A| = \aleph_0$$

を満たすこと. 自然数の無限集合の集合  $\mathcal{S}$  について



- $\mathcal{S}$  が **splitting family**

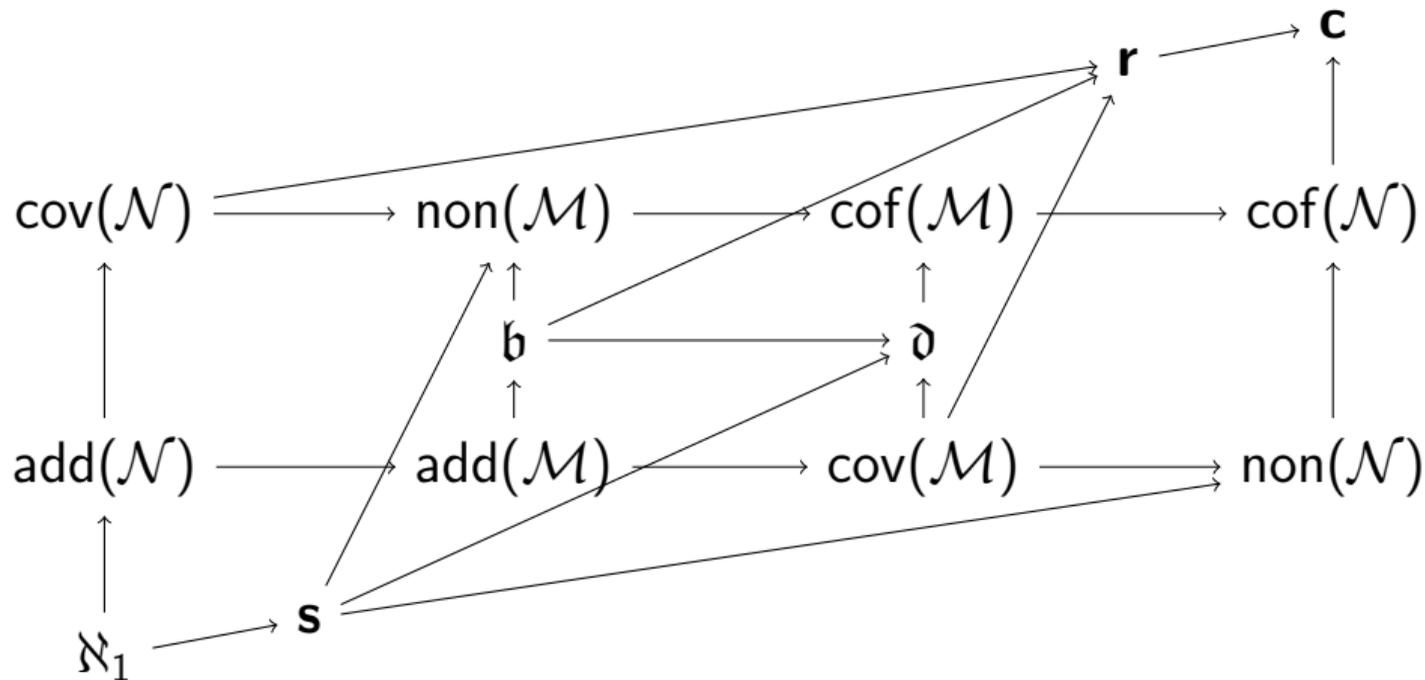
$$: \iff (\forall B \in [\omega]^\omega)(\exists A \in \mathcal{S})(A \text{ が } B \text{ を分割する})$$

次の  $s$  を splitting number という :

- $s := \min\{|\mathcal{S}| : \mathcal{S} \text{ は splitting family}\}$

# s と基数不変量

s は連続体の基数不変量の典型例である。



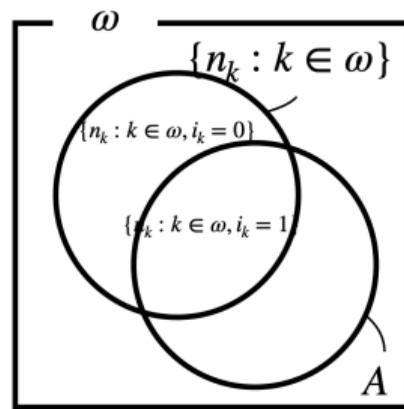
# splitting game

集合  $A \subseteq \mathcal{P}(\omega)$  を固定. 次のゲームを  $A$  に関する **splitting game** と呼ぶ:

プレイヤー I	$n_0$	$n_1$	$\dots$
プレイヤー II	$i_0$	$i_1$	$\dots$

$n_0 < n_1 < n_2 < \dots < n_k < \dots$  は単調増大な自然数列で,  $i_0, i_1, \dots, i_k, \dots$  は  $\{0, 1\}$  の元の列. プレイヤー II が勝つ  $\Leftrightarrow$  プレイヤー II が 0 と 1 をそれぞれ無限回プレイしていて, かつある  $A \in \mathcal{A}$  が存在して,

$$\{n_k : k \in \omega\} \cap A = \{n_k : k \in \omega \text{ and } i_k = 1\}.$$



# splitting game に関する基数不変量の定義

## 定義

$$s_{\text{game}}^{\text{I}} = \min\{|\mathcal{A}| : \mathcal{A} \subseteq \mathcal{P}(\omega),$$

プレイヤー I が  $\mathcal{A}$  に関する splitting game で  
必勝戦略を持たない }

$$s_{\text{game}}^{\text{II}} = \min\{|\mathcal{A}| : \mathcal{A} \subseteq \mathcal{P}(\omega),$$

プレイヤー II が  $\mathcal{A}$  に関する splitting game で  
必勝戦略を持つ }

# splitting game に関する定理

次はかんたんにわかる.

命題

$$\mathbf{s} \leq \mathbf{s}_{\text{game}}^{\text{I}} \leq \mathbf{s}_{\text{game}}^{\text{II}} \leq \mathbf{c}.$$

次は議論が必要.

定理

$$\mathbf{s}_{\text{game}}^{\text{I}} = \mathbf{s}_{\sigma} \text{ かつ } \mathbf{s}_{\text{game}}^{\text{II}} = \mathbf{c}.$$

( $\mathbf{s}_{\sigma}$  の定義は次のページ)

# $\sigma$ -splitting number の定義

自然数の無限集合  $A$  と  $f: \omega \rightarrow [\omega]^\omega$  について  $A$  が  $f$  を  $\sigma$ -分割するとは、

任意の  $n$  に対して  $A$  が  $f(n)$  を分割する

ということ。自然数の無限集合の集合  $\mathcal{S}$  について

- $\mathcal{S}$  が  $\sigma$ -splitting family

:  $\iff (\forall f: \omega \rightarrow [\omega]^\omega)(\exists A \in \mathcal{S})(A \text{ が } f \text{ を } \sigma \text{ 分割する})$

次の  $s_\sigma$  を  $\sigma$ -splitting number という：

- $s_\sigma := \min\{|\mathcal{S}| : \mathcal{S} \text{ は } \sigma\text{-splitting family}\}$

$s$  と  $s_\sigma$  が ZFC で等しいことが示せるかどうかは長年の未解決問題！

# splitting\* game

集合  $A \subseteq \mathcal{P}(\omega)$  を固定. 次のゲームを  $A$  に関する **splitting\* game** と呼ぶ:

プレイヤー I	$i_0$	$i_1$	...
プレイヤー II	$j_0$	$j_1$	...

$i_0, i_1, \dots, i_k, \dots$  と  $j_0, j_1, \dots, j_k, \dots$  はどちらも  $\{0, 1\}$  の元の列. プレイヤー II が勝つのはプレイヤー I が有限回しか 1 を言わなかったとき, または,

$\{k \in \omega : j_k = 1\}$  は  $A$  の元でかつ  $\{k \in \omega : i_k = 1\}$  を分割する

となるとき.

# splitting\* game に関する基数不変量の定義

## 定義

$$s_{\text{game}^*}^{\text{I}} = \min\{|\mathcal{A}| : \mathcal{A} \subseteq \mathcal{P}(\omega),$$

プレイヤー I が  $\mathcal{A}$  に関する splitting\* game で  
必勝戦略を持たない }

$$s_{\text{game}^*}^{\text{II}} = \min\{|\mathcal{A}| : \mathcal{A} \subseteq \mathcal{P}(\omega),$$

プレイヤー II が  $\mathcal{A}$  に関する splitting\* game で  
必勝戦略を持つ }

# splitting\* game についての考察

splitting\* game はプレイヤー II にとって splitting game より難しいゲーム.

したがって,  $s_{\text{game}}^{\text{I}} \leq s_{\text{game}^*}^{\text{I}}$  かつ  $s_{\text{game}}^{\text{II}} \leq s_{\text{game}^*}^{\text{II}}$ . つまり,  
 $s_{\sigma} \leq s_{\text{game}^*}^{\text{I}}$  かつ  $s_{\text{game}^*}^{\text{II}} = c$ .

# splitting\* game についての定理

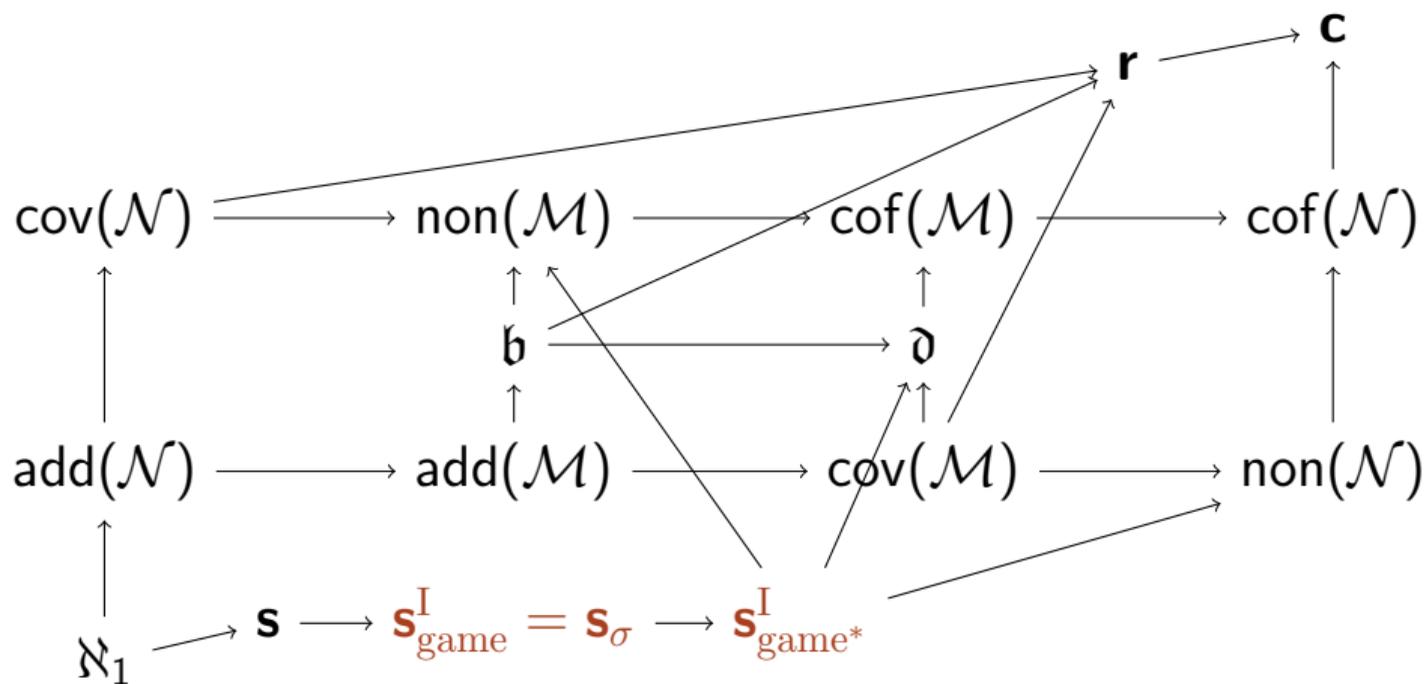
定理

命題  $s < s_{\text{game}^*}^I$  は ZFC から相対的に無矛盾.

定理

$s_{\text{game}^*}^I \leq \text{non}(\mathcal{M}), \mathfrak{d}, \text{non}(\mathcal{N}).$

# $\mathbf{s}_{\text{game}}^{\text{I}}$ を追加した図式



# 参考文献

- [Bar10] Tomek Bartoszyński. “Invariants of measure and category”. In: *Handbook of Set Theory*. Springer, 2010, pp. 491–555.
- [BJ95] Tomek Bartoszyński and Haim Judah. *Set Theory: on the structure of the real line*. CRC Press, 1995.
- [Bla10] Andreas Blass. “Combinatorial cardinal characteristics of the continuum”. In: *Handbook of set theory*. Springer, 2010, pp. 395–489.
- [HMM10] Michael Hrušák, David Meza-Alcántara, and Hiroaki Minami. “Pair-splitting, pair-reaping and cardinal invariants of  $F\sigma$ -ideals”. In: *The Journal of Symbolic Logic* 75.2 (2010), pp. 661–677.
- [IS88] Jaime I. Ihoda and Saharon Shelah. “Souslin Forcing”. In: *Journal of Symbolic Logic* 53.4 (1988), pp. 1188–1207.

我々のプレプリント： [arXiv:2308.12136](https://arxiv.org/abs/2308.12136)